

の奥村のり子 赤旗 読者ニュース

2015年8月30日 第186号

——奥村のり子生活相談所——

〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11

☎ & FAX 073-427-7121

Eメール wjcpken@naxnet.or.jp



「戦争法案の知事答弁はひどい」 傍聴した住民が怒りの声

一般質問初日は松坂県議(幹事長)が登壇。1、安全保障関連法案への政治姿勢、2、河川・水路の一体的整備について、3、「地方再生」について質しました。傍聴された住民のみなさんからは「戦争法案への知事の答弁はひどい」と感想が出されました。平和を守るためと言いながら軍備の増強を認めているような答弁だったとおもいます。

ひまわりのように戦争法案廃案の大喝をいませー！



宮本たけし 衆院議員 きたる！

「憲法では地方自治の保障が定められているため、自治体が戦争や武力の行使に反対し、平和を実現するための行動をとることは、平和主義に基づく自治体の責務であると同時に、憲法によって保障された自治権の当然の行使ではないでしょうか。」

8月30日は戦争法案廃案めざし国会10万人・全国100万人大行動の日です。市内でも各地で宣伝行動が取り組まれます。

午後1時30分から宮本たけし衆院議員(写真)が勤労者総合センター6階(市役所西側)で国会状況をお話します。ぜひご参加下さい。

戦争法案に反対する創価学会員「最近増えている」と報道。録画してないので殆ど忘れましたが反対の会員2名のインタビューもありました。「今後の選挙は？」との問いに一人は「公明党には入れない」。もう一人は「棄権する」でした。そこで創価学会についてネットで調べると反対の声が沸いていました。創価学会のシンボル赤黄青3色旗に「公明党を平和に目覚めさせて」とのプラカードを持って、創価学会本部前でのママデモの写真もあるし、創価大学と創価女子短大の教員や学生らが公然と安保法制反対の声明を発表、賛同者が急増しているニュースや、和歌山・岩出市の創価学会員が3色旗に「バイバイ公明党」と書いて大阪の安保法制反対集会に参加した話。愛知県武豊町の公明党町議だった方は、昨年6月、集団的自衛権に反対する意見書を共産党議員らとともに町議会に提出し1票差で可決。だがこれが「反党的だ」と問題視され離党。今春の町議選では無所属で立候補し前回並みの得票で当選した話。これらは一部ですが読み物がいっぱい。

盆明けのMBSテレビ「ちちんぷいぷい」を何気なく視ていると、「最近、創価学会で安保法制反対の動きが増えている」と報道。録画してないので殆ど忘れましたが反対の会員2名のインタビューもありました。「今後の選挙は？」との問いに一人は「公明党には入れない」。もう一人は「棄権する」でした。そこで創価学会についてネットで調べると反対の声が沸いていました。創価学会のシンボル赤黄青3色旗に「公明党を平和に目覚めさせて」とのプラカードを持って、創価学会本部前でのママデモの写真もあるし、創価大学と創価女子短大の教員や学生らが公然と安保法制反対の声明を発表、賛同者が急増しているニュースや、和歌山・岩出市の創価学会員が3色旗に「バイバイ公明党」と書いて大阪の安保法制反対集会に参加した話。愛知県武豊町の公明党町議だった方は、昨年6月、集団的自衛権に反対する意見書を共産党議員らとともに町議会に提出し1票差で可決。だがこれが「反党的だ」と問題視され離党。今春の町議選では無所属で立候補し前回並みの得票で当選した話。これらは一部ですが読み物がいっぱい。



今年原水爆禁止世界大会広島集

会に参加しました。NPT再検討会議で最終文書採択出来なかつた事、また、被爆者の平均年齢が80歳を超え原爆被害の継承が核廃絶と同様に被爆者の切実な願いとなっている事が今回の大会の大きなテーマだった様に感じます。

原水禁世界大会に参加

最終文書の採択が出来なかつた事は残念ですが、核兵器のない世界を実現する法的拘束力のある措置を求める声が多数を占め、核保有国を追い詰めたとの報告は、これまで核廃絶を求めてきた方々や被爆者の運動の成果であり、引き継がなければなりません。今回、被爆体験を聞き印象に残ったのは、原爆症のため無気力で横暴な父親に「仕えた」との被爆者の体験です。当時は、その生活態度が原爆症によるものだと思わず、父親を憎む生活を送らされた事。また、妹の誕生や成長の

隣国の脅威論や武力による抑止論はまちがいです



原爆ドーム

喜びを感じなかつた事は、身近な幸せまで原爆に奪われるのだと、痛感しました。

分科会は、「平和に対し日本が果たすべき役割」のテーマに参加しました。隣国に対する脅威論や武力による抑止論がいかに実態を踏まえていないか、また、平和に繋がらないことが分かりやすく話されていました。

中国や北朝鮮が非難される行いをしてる事は前提ですが、ロケットの発射実験、また領土問題など他の国も同様に非難されるべき事を行っており、それについてことさら脅威を煽り、一方的に非難し抑止論を掲げ軍拡を続けているは、問題を解決するどころか、相手にも軍拡や核装備の大義名分を与えてしまうことになり。今、日本が為すべきことは、戦争での反省を踏まえ、平和憲法の下、軍拡ではなく軍縮へ先頭に立つべきであり、日本こそが相応しいと確信しました。

8月の週刊日誌—主なもの—

- 8月28日 市駅吉宗像前宣伝、一般質問口
- 29日 市駅夏まつり、地域訪問 紀伊)
- 30日 宣伝行動、宮本岳志衆院議員の()
- とく、団体壮行式
- 31日 常任委員会
- 9月1日 常任委員会予備口
- 2日 本会議
- 3日 本会議、閉会 無料生活相談口

党市議会議員 中村あさと

